

**Kani no shoubai**①

[かにのしょうばい①]

こたえ

◆^{つぎ}次の文を^{ぶん}ひらがなになおしましょう。

kaniga iroiro kangaeta ageku,

かにが いろいろ かんがえた あげく

tokoyawo hajimemashita

とこやを はじめました

kanino kangaetoshitewa oodekide arimashita

かにの かんがえとしては おおできで ありました

tokorode, kaniwa, 「tokoyatoi shoubaiwa,

ところで かにには とこやという しょうばいは

taihen himana monodana」 to omoimashita

たいへん ひまな ものだな と おもいました

to moushimasunowa, hitorimo okyakusannga

と もうしますのは ひとりも おきゃくさんが

konaikarade arimasu

こないからで あります

sokode, kanino tokoyasanwa, hasamiwo motte

そこで かにの とこやさんは はさみをもって

umippatani yatte ikimashita

うみっぱたに やって いきました

sokoniwa takoga hirunewo shiteimashita

そこには たこが ひるねを していました

「moshimoshi, takosann」 to kaniwa yobikakemashita

もしもし たこさん と かにには よびかけました